

1 . トップページの更新

前回作った index.html を書き換えます。テキストエディタを使って次のプログラムのように必要な部分を追加し保存してください。

```
<html >
<head>
<ti tle>
トップのページ
</ti tle>
</head>
<body>
<center>
トップのページ
<br><br>
200X XX XX update
<br><br>
<hr>
<br><br>
<a href=" ./kadai 1. html ">課題 1 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 2. html ">課題 2 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 3. html ">課題 3 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 4. html ">課題 4 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 5. html ">課題 5 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 6. html ">課題 6 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 7. html ">課題 7 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 8. html ">課題 8 </a>
<br><br>
<a href=" ./kadai 9. html ">課題 9 </a>
<br><br>
</center>
</body>
</html >
```

2 . JavaScript (その 2)

前回、学習した JavaScript をページ作りに応用してみましょう。繰り返しを使うと同じような操作をまとめて処理することができます。次の例を試してみましょう。

```
<html>
<body>
<script language=" javascript">
<!--
flag=new Array("FR.gif", "SN.gif", "UY.gif", "DK.gif");
for(i=0; i<=3; i++){
document.write(flag[ i]);
```

```
}
-->
</script>
</body>
</html>
```

さてこのプログラムでは配列を使っています。次の文で配列を宣言しています。

```
flag=new Array("FR.gif","SN.gif","UY.gif","DK.gif");
```

配列とは番号付きの配列と考えてください。配列を作るには配列の名前を = の左側に書きます。右側には new Array と書くことで新しく配列の中身を宣言します。この文により flag[0]には FR.gif、 flag[1]には SN.gif、 flag[2]には UY.gif、 flag[3]には DK.gif、 の単語が入ります。配列の番号は 0 から始まります。単語の場合には “ ” で囲みます。 次の for 文で繰り返しを行いブラウザ上にこれらの単語を表示します。

それでは、次にこの単語を使って国旗の画像を表示してみましょう。次のプログラムを試してください。国旗の画像が同じディレクトリにない場合表示されないので注意してください。

```
<html>
<body>
<script language="javascript">
<!--
flag=new Array("FR.gif","SN.gif","UY.gif","DK.gif");
for(i=0;i<=3;i++){
document.write("");
}
-->
</script>
</body>
</html>
```

配列を利用して画像を表示するためにタグを使っています。ここで

```
document.write("");
```

 のようなプログラムの書き方をしています。これは本当は

```
document.write("");
```

 のように書きたいのですが “ ” で囲んでいる部分がはっきりしなくなるので、“ ” で囲んでいる部分で “ を使うときには ¥ ” のように書くことになっています。

<参考> このプログラムが実行されるとページではフランスの部分は

```

```

のようになります。

タグの hspace パラメータは画像の横の空白を設定しています。また、単語や文同士を結びつける時には上記の例のように + を用います。

さて、表を使って表示してみましょう。次のプログラムを試してください。

```
<html>
<body>
<script language="javascript">
<!--
flag=new Array("FR.gif","SN.gif","UY.gif","DK.gif");
kuni=new Array(
"フランス      2大会連続      1 1回目優勝(1998)",
"セネガル      初出場          -",
"ウルグアイ    3大会連続      1 0回目優勝(1930,50)",
"デンマーク    2大会連続      3回目          ベスト8(1998)");

document.write("<table border=¥\"1¥\">");
for(i=0;i<=3;i++){
document.write("<tr>");

document.write("<td>");
document.write("<img src=¥\""+flag[i]+"¥" hspace=¥\"2¥\">");
document.write("</td>");
document.write("<td>");
document.write(kuni[i]);
document.write("</td>");

document.write("</tr>");
}
document.write("</table>");
-->
</script>
</body>
</html>
```

国情報として配列 kuni を使っています。表のタグを出力すれば簡単に表を作ることができます。国情報を表示するときには直接 write を使って kuni[i]を書いているところに注意してください。

課題 . ワールドカップの国別情報を表示するページを作ってください。余裕のある人はグ

ループ別に国別情報を表示してみてください。表を使うわけですがどの部分を繰り返しているかがわかれば簡単です。国情報のテキストは以前配布した KUNI.TXT にあります。
作ったページは kadai9.html としなさい。